



平成 18 年 7 月 21 日

各 位

会 社 名 株式会社 クリムゾン
代表者名 代表取締役社長 児玉俊明
(JASDAQ・コード 2 7 7 6)
問合せ先 専務取締役 藤田 潔
電 話 0 3 - 3 5 4 8 - 1 5 1 5

平成 19 年 1 月期 (非連結) 中間期および通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 18 年 3 月 17 日付当社平成 18 年 1 月期決算短信 (非連結) にて発表しました平成 19 年 1 月期の業績予想 (平成 18 年 2 月 1 日 ~ 平成 19 年 1 月 31 日) の中間期および通期業績予想について下記のとおり修正いたします。

記

1. 業績予想数値の修正

(1) 平成 19 年 1 月期中間期 (平成 18 年 2 月 1 日 ~ 平成 18 年 7 月 31 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	9,343	646	235
今回修正予想 (B)	7,483	447	310
増 減 額 (B - A)	1,860	1,093	545
増 減 率	19.9		
(ご参考) 前年実績 (平成 18 年 1 月期中間期)	9,064	507	199

(2) 平成 19 年 1 月期通期 (平成 18 年 2 月 1 日 ~ 平成 19 年 1 月 31 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	19,506	1,148	500
今回修正予想 (B)	16,135	41	73
増 減 額 (B - A)	3,371	1,107	573
増 減 率	17.3	96.4	
(ご参考) 前年実績 (平成 18 年 1 月期通期)	18,589	1,076	467

2.業績予想修正の理由

(1)中間業績予想の修正について

平成 19 年 1 月期中間期の売上高は、対前年実績比 3.1%増の 93 億 43 百万円を見込んでおりました。しかしながら、当中間会計期間においては、3 月から 6 月にかけて気温が低く推移し、当初の見通しに比べ夏物商品の投入が進まない状態が続きました。また、当社顧客である大手 GMS（総合スーパー）、ジーニングカジュアルウエア専門店でのプライベートブランド商品化が当初の予測より急速に進んでいる事もあり、当社売上高の約 7 割を占める卸売事業部門の売上高は、当初業績予想比 19.7%減の 51 億 97 百万円の見込みとなりました。従いまして、当中間期の売上高は、当初業績予想比 19.9%減の 74 億 83 百万円に修正いたします。

売上総利益は、夏物商品が実需期に移るに従いセール価格に移行し、売上総利益率が低下しております。また、当社は春夏物商品在庫を中間会計期間末日に評価しており、在庫の評価減を見込んでおります。

当中間期における販売費及び一般管理費は、当初予想比 4.2%減を見込んでおりますが、売上高の減少を吸収するには至らず、経常損失は 4 億 47 百万円、中間純損失は 3 億 10 百万円となる見込みです。

(2)下期業績予想の見込みについて

下期見通しにつきましては、8 月中旬以降投入する秋物および 10 月中旬以降に投入する冬物において、当社顧客である小売店のプライベートブランド商品との差別化が出来る商品を販売するキャンペーンを実施いたします。しかしながら、売上高の大幅な改善に至るまでは見込めないと予想しております。

このような状況において、売上高および利益の回復、改善に向け、以下の施策を実施してまいります。

・新規ブランドの投入

本年 9 月より、秋冬中心のブランドとして「Bear USA」(ベアーユーエスエー)を新規に販売開始いたします。ダウンジャケット等を中心に卸売販路での販売をいたします。

・中国物流センターへの物流業務移管

物流費削減に向け国内物流業務を順次縮小しております。これに伴い、本年 2 月より中国江蘇省金壇において稼働開始した中国物流センター（合弁出資会社に業務委託）で行っている物流加工業務の取扱数を拡大し、物流コストの削減を実施してまいります。

・SPA 事業の基盤確立

当社は、SPA（製造小売）事業としてレディスカジュアルウエア「pour le mieux」(プーレミュー)を展開しております。同事業については、今秋冬より商品の供給について、商品企画・開発から生産計画、予算計画、販売促進まで関わる M D 力の強化を実施し、売れ筋商品を的確な時期に投入する体制を再構築することにより、今期中の黒字化実現を目指します。また、アメリカンカジュアルウエア「Coral Point」(コーラルポイント)では、卸売商品との差別化を図り、商品およびブランドのオリジナル化を進めてまいります。

これらの施策により、下期の売上高は 86 億 51 百万円、経常利益 4 億 88 百万円、当期純利益 2 億 36 百万円を見込んでおります。

(3)通期の業績修正について

以上の結果により、当期通期の売上高は 161 億 35 百万円、経常利益 41 百万円、当期純損失 73 百万円となる見込みです。

3.当期の配当方針について

当期の配当予想につきましては、現在のところ修正の予定はありません。

上記の予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づく将来予測等を前提としております。従って、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があることにご留意下さい。

以 上